

「建築工事標準仕様書・同解説 JASS19 陶磁器質タイル張り工事」正誤表

・P4 および P48 の表 3.1 : セメントペースト張り、適用下地の敷きモルタルの“硬化後”を“硬化前”に訂正

・P9 3.4.3b細骨材を以下に訂正

(1)細骨材は原則として川砂またはけい砂とし、清浄で有害量の粘土塊・泥分・有機不純物・塩化物などを含まないものとする。

(2)細骨材の最大粒径は、工法の種類に応じて表 3.7 のとおりとする。

表 3.7 細骨材の最大粒径

工法の種類	細骨材の最大径(mm)
改良圧着張り	2.5
改良積上げ張り	2.5
密着張り	2.5
モザイクタイル張り	1.2
マスク張り	1.2
圧着張り	2.5
セメントペースト張り	—

(3) 細骨材の粒度分布は、表 3.8 を標準とする。

表 3.8 細骨材の標準粒度分布

ふるい呼び寸法(mm)	通過率(%)
2.5	80~100
1.2	70~100
0.6	40~80
0.3	5~40
0.15	0~10

(4)上記以外の細骨材を用いる場合は、特記による。

・P21 下から2行目および P106 上から7行目 : “表 1.3.4”を“表 3.6”に訂正

・P31 下から4行目および P162 b(1) : “3.5.12”を“3.5.1.2”に訂正

・P46 上から 8 行目および P95 上から 14 行目 : “解説図 1.3.1”を“解説図 3.16”に訂正

・P77 3.4.3b細骨材を以下に訂正

(1)細骨材は原則として川砂またはけい砂とし、清浄で有害量の粘土塊・泥分・有機不純物・塩化物などを含まないものとする。

(2)細骨材の最大粒径は、工法の種類に応じて表 3.7 のとおりとする。

表 3.7 細骨材の最大粒径

工法の種類	細骨材の最大径(mm)
改良圧着張り	2.5
改良積上げ張り	2.5
密着張り	2.5
モザイクタイル張り	1.2
マスク張り	1.2
圧着張り	2.5
セメントペースト張り	—

(3)細骨材の粒度分布は、表 3.8 を標準とする。

表 3.8 細骨材の標準粒度分布

ふるい呼び寸法(mm)	通過率(%)
2.5	80~100
1.2	70~100
0.6	40~80
0.3	5~40
0.15	0~10

(4)上記以外の細骨材を用いる場合は、特記による。

b.細骨材

(1)最近、骨材事情の悪化から良質の砂の入手が困難となっており、川砂については、粘土塊・泥分・塩化物などの不純物に注意を要する。これらの不純物がある量以上存在すると、混練水量の増加、凝結の異常、強度・接着力の低下、収縮の増大などの問題を生ずる。

砂の品質として JASS5 では、解説表 3.7 に示すように定めている。

解説表 3.7 砂の品質(JASS5)

品質	規格
絶 乾 密 度	2.5%以上
吸 水 率	3.5%以下
粘 土 塊 量	1.0%以下
洗 い 残 量	3.0%以下
有 機 不 純 物	標準色液または色見本の色より淡い
塩 化 物 (NaClとして)	0.04%以下

けい砂は、硬質の玄武岩・安山岩などを粉砕して粒度を調整したものである。

けい酸分を 90%以上含み、不純物の少ない、安定性の良いタイル用の細骨材として適したものをを用いる。

(2)細骨材の最大粒径

タイル張付けモルタルは、タイルの裏面全体に充填されることが必要である。タイル裏面に十分にモルタルを充填するためには、裏あしの高さよりも小さい粒径の骨材とすることが必要である。このため、張り付けられるタイルの種類および形状により、また工法によって、表 3.7 に示すとおり使用される骨材の粒径が異なってくる。

(3)細骨材の粒度分布

細骨材の粒度がモルタルの作業性・強度、収縮によるひび割れ、剥離などに与える影響は極めて大きい。したがって、粒径とともに、表 3.8 に従い粒度分布のチェックが必要である。

(4)上記以外の細骨材

川砂およびけい砂が入手出来ず、山砂・海砂を用いる場合は、山砂では特に有機物・泥分に、海砂では特に塩化物に注意を払うことが必要である。

・P92 上から 10 行目 : “解説表 1.3.3”を“解説表 3.19”に訂正

・P105 3.5.6.1a(ii) : “3.5.2.1b”を“3.4.3.1b”に訂正

・P106 上から 7 行目および下から 4 行目 : “表 1.3.3”を“表 3.5”に訂正

・P106 上から 7 行目: “表 1.3.4”を“表 3.6”に訂正

・P130 上から 7 行目 : “3~5m”を“3~5 mm”に訂正